

# エフェソの信徒への手紙

シリーズ～新約聖書入門～広島弁訳聖書

2017/9/17



コリント

エフェソ



聖パウロの  
第1・第2次伝道旅行

Copyright by C. S. HAMMOND & CO., N. Y.



第1次旅行 → 第2次旅行 →

かつては、パウロがベッシヌス、アン  
キラ、タヴルウなどのガラテヤの町  
の学者たち

第1次および  
第2次伝道旅  
行の出发点



# アジア州の中心的教会

- パウロが約3年間腰を据えて伝道した町
  - 「パウロは会堂に入って、3か月間、神の国のことについて大胆に論じ、人々を説得しようとした。しかしある者たちが、かたくなで信じようとはせず、会衆の前でこの道を非難したので、パウロは彼らから離れ、弟子たちをも退かせ、ティラノという人の講堂で毎日論じていた。このようなことが2年も続いたので、アジア州に住む者は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、だれもが主の言葉を聞くことになった。」19:8-10
- アジア州(トルコ半島)の中心教会になった

# パウロが獄中から書いた手紙

- エフェソ・フィリピ・コロサイ・フィレモンは「獄中書巻」と呼ばれる
  - 「あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているわたしパウロは。」3:1
- ローマ(使徒28章)かカイサリア(24章)で捕らえられていた時に書き送った手紙
  - 「わたしはこの福音の使者として鎖につながっていますが、それでも、語るべきことは大胆に話せるように、祈ってください。」6:20



# エフェソ教会だけにではなく...

- 「エフェソにいる聖なる者たち」とあるが
- 個人的なあいさつが全くない
  - ほかに手紙には巻末に個人に宛てたあいさつがある
- 特定の問題やニュースが扱われていない
  - 律法問題・分裂・グノーシス派...
- エフェソを中心としたアジア州の教会全体に宛てた手紙ではないか
  - 「回覧」を前提としている

# 「教会」についての教え

- イエス・キリストのからだ
  - 「教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。」1:23
- ユダヤ人と異邦人が一つとなる
  - 「十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」2:16
- 一人一人が体の部位であり、連携して働き、全体として成長する
  - 「キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。」4:16



# エフェソの信徒への手紙

～堀川寛による広島弁訳～

(広島弁訳の意味) (訳者の解説・蛇足)

1:15 ほいじゃけえ、わしらも、あんたらが主イエス様を信じ、すべての聖徒らを大切に思うとると聞き、祈りのたんびに(度に)、あんたらのことを思い出して、感謝を献げとる。(パウロの祈り)

「どうか、わしらの主イエス・キリスト様の父上であり、栄光の源である神様が、あんたらに知恵と啓示の霊を与え、神様をふこう(深く)知ることができるようにし、心の目を開いてくださるように。ほいで、神様が招きの希望がどげなもんで、聖徒の受け継ぐもんがどんだけ栄光に輝いとるか、わしら信仰者に働かれる神様の力が、どんだけものすごいもんか、分からして下さるように。」

神様は、この力をキリスト様に働かして、キリスト様を死からよみがえらせ、天でご自分の右の座に着かせんさった。ほいで、すべての支配、権威、力、主権の上に、今の世ばかりじゃのうて、来るべき世におけるあらゆる称号の上に置きんさった。神様はまた、すべてのもんをキリスト様の足の下に従わせ、すべてのもんの頭であるキリスト様を教会に与えんさった。教会はキリスト様の体で、あらゆる仕方であらゆるもんを満たされる方の満ちておられるところじゃ。

## 第2章

あんたらはのう、以前はおのれの過ちと罪のせいで死んだも同然じゃった。この世を支配し、この空間の権力者であり、不従順なもんらのうちに今も働き続けとる霊にしたごうて、過ちと罪を犯して生きとったんじゃ。わしらもみんな、こういう輩の中で、肉の欲望の赴くままに生活し、体や心の欲するままに行動しようた。ほかのもんとおんなじように、生まれつき神様の怒りを受けんにゃあいけんかった。ほいじゃが、憐れみに溢れとられる神様は、わしらをこれ以上ないほど大切に思うてくださり、罪のせいで死んだも同然じゃったわし

らをキリスト様とともに生かし、—あんたらが救われたんは恵みによるんでえ—とともに復活させて、キリスト・イエス様にあつてもに天の御座につかせてくれんさった。こうやって神様は、キリスト・イエス様においてわしらに示された慈愛により、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に顕そうとされたんじゃ。あんたらは、恵みにより、信仰によって救われた。これは、自分でやったことじゃあない、神様からの賜物じゃあ。行いによるんじゃないでえ。そりゃあ、誰も威張らせんためじゃ。わしらは、神様が予め準備してくれんさったええことを実行しつつ歩むように、キリスト・イエス様によって造り変えられた神様の作品なんじゃ。

ほいじゃけえ、よう憶えとりんさい。あんたらは前は人間としては異邦人で、割礼を受けとる連中(ユダヤ人)からは、割礼のないもんと呼ばれとった。また、そんなころ(その頃)は、キリスト様とは何の関わりもなかつたし、イスラエルの民でもなく、約束の契約の外におり、この世の中で神様も希望もなく生きとった。ほいじゃが、前は遠く離れとったらんたらが、今や、キリスト・イエス様において、その血によって近いもんにしてもらうた。げに(実に)、キリスト様こそわしらの平和じゃ。ご自分の(尊い)体によって、規則の塊である律法を無効にすることで敵意の壁を壊し、二つのもんを一つにしてくれんさった。キリスト様は、十字架によって、異邦人とユダヤ人を一つにして、新しい人類を造られたんじゃ。十字架によって、両者をもとに神の一つの体となるべく和解させ、十字架によって横たわる敵意を始末しんさった。キリスト様は、遠く離れとったあんたらにも、近くにおったもんにも、平和の福音を伝えるために来てくれんさった。キリスト様のお陰で両者は唯一の聖霊を通して御父に近づくことができるんじゃ。ほいじゃけえ、あんたらははあ(既に)、外国人でも寄留者でもなく、聖徒と共に神様の家族にしてもらうた。あんたらは、使徒と預言者いう土台の上に建てられとる。その要石はキリスト・イエス様じゃ。この建物は、キリスト様において組み合わされて建て上げられ、主の聖なる神殿となる。キリスト様に

において、あんたらも共に建てられて、神様が霊としてお住まいになる建物になるんじや。

### 第3章

3:14 ほうじゃけえわしは、お父様の前にひざまずいて祈る。天の家族も、地の家族も、そのお父様から名前をもうとる。(パウロの祈り)

「どうか、(天の)お父様が、その栄光に満ちた豊かさのふさわしく、その霊と力によってあんたらの内なる人を強め、信仰によってあんたらの心にキリスト様を住ませ、愛に根ざし、愛を土台とするもん(者)としてくださいますように。また、あんたらが、すべての聖徒らと共に、キリスト様の愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれくらいもんか悟り、人知を遙かに超えたこの愛を体験し、やがては、神様の満ち溢れる豊かさに満たされるように。わたらの内に働かれる力により、わたらの思いや願いを遙かに超えて(素晴らしく)叶えて下さることが出来る方に。教会により、また、キリスト・イエス様によって、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。」

### 第4章

それでじゃ。主の囚人であるわしから、あんたらによう言うとかんにゃあいけんことがある。神様に呼ばれたんじやけえ、呼ばれたもんらしゅう歩みんさい。偉そうにせず、優しく、寛容な心を持ちんさい。愛の心で互いに我慢し合い、平和のきずなで結ばれて、霊の一致を保ち続けるようがんばんりんさい。体は一つ、御霊は一つ。あんたらが一つの希望にあずかるために呼ばれたんとおんなじじゃ。主はお一人、信仰は一つ、洗礼も一つ。万物の父である神様はお一人であり、万物を支配し、万物を動かし、万物を存在させておられる。ほうじゃが、わたら一人一人には、キリスト様の賜物のはかりに従って、恵みが与えられとる。(旧約聖書に)「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、人々に賜物を分け与えられた」と書いてある。「昇った」ということは、(一旦)低い所、つまり地上に降りてこられたということじゃ。降りてこられた方が、万物を満たすために、天よりたこう

(高く)昇られたんじや。ほいで、あるもん(人)を使徒、あるもんを預言者、あるもんを伝道者、あるもんを牧師、教師とされた。ほいでもって、聖徒は奉仕にふさわしゅう備えられ、キリスト様の体を作って上げて、わたらみな神様の御子についての信仰と知識において一致し、完全な大人になって、キリスト様の満ち溢れる豊かなお姿を目指して成長するんじや。そうすることでわたらは、子どもを卒業し、わたらをだまして間違っほうへ行かそうとする悪いやつらの、ええかげんな(いいかげんな)教えに振り回されることなく、愛に溢れて真理を語り、すべての面でかしらであるキリスト様を目指して成長していくんじや。キリスト様の指示により、体全体は、あらゆる関節によってがっちりつながれ、連携し、各部位はその役目に応じて働いて貢献し、愛に溢れて全身が成長していくんじや。

ほうじゃけえ、わしやあ主(イエス様)に代わって言うとかで。神様を知らんもんとおんなじように空しい思いで歩んじやあいけん。あんららの思考は闇に閉ざされ、無知と頑固さのために、神様の命から遠ざかるとる。ほいで、感覚が麻痺して、不道徳な生活に身を任し、汚れと強欲にまみれとる。あんたらは、そういう生き方をするためにキリスト様を学んだじゃない。キリスト様に聞き、キリスト様に教えられたのなら、真理はイエス様の内にある(と確信しとるはずじゃ)。ほうじゃけえ、あんたらは、滅びに向かわせる情欲に支配された古い自分を捨て、心底新しゅうされて、真理による正義と聖さをもって神様が創造された新しい自分を身に着けにゃあいけん。

そういうことじゃけえ、嘘つきはやめて、互いに正直に語り合おうじゃないか。わたらは、同じ体の一部なんじやけえ。怒ってもええが、罪を犯しちゃあいけん。せめて日が暮れるまでには怒りを静めようやあ。悪魔にチャンスをやっちゃあいけん。盗みをしよったもんは、もうやっちゃあいけん。額に汗して働き、まっとうな金を稼ぎ、困つとるもんに分けてやるぐらいになろうや。汚い言葉が一切口から出んようにしんさい。必要に応じて、聞くもん



にふさわしい、徳を養うような言葉を語りなさい。神様の聖霊を悲しましやあいけん。あんたらは、贖いの日(最後の審判)のために聖霊の証印を受けとるんじゃ。辛辣(しんらつ)、憤り、怒り、喧噪、批判などは、一切の悪意とともに捨ててしまいなさい。互いに親切にし、優しい心で関わり、神様がキリスト様であってあんたらを赦してくれんさつたように、赦し合いなさい。

## 第5章

あんたら、神様に愛されとる子どもらしゅう、神様に倣うもんになりなさい。キリスト様がわしらを大切に思うて、ご自分を芳しい供え物として神様に献げて下つたように、あんたらも愛のうちに歩みなさい。あんたらは聖められたもんとして、低俗なことや汚らしいこと、貪欲なことなんかを口にしやあいけん。恥ずべき言葉や、バカげた話し、下品な冗談もなしじゃ。むしろ感謝しなさい。低俗なもん、汚れたもん、貪欲なもん、つまり偽りの神々に仕えるもんらは、キリスト様と神様との御国を受け継ぐことはできんことを心に刻みなさい。

意味のない言葉にだまされやあいけん。神様の怒りはそういうやつらに下る。もちろん、そんならの仲間に引き入れられんようにしなさい。あんたらは、前は闇じゃつたが、今は主に包まれて光を放つとる。光の子として歩みなさい。主を喜ばせるにはどうしたらええか、よう考えなさい。実を結ぶことのない闇の業に加わらず、むしろそれを暴いてやりなさい。あんたらが隠れてやつとることは、口にするんも恥ずかしい。ほいじゃが、(いづれ)すべてのもんは白日の下にさらされる。光がすべてを照らし出すんじゃ。「眠りについてる者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストはあなたを照らされる。」と言われとるとおりじゃ。知恵のないものようじゃなく、知恵のあるもんとして注意ぶこう(深く)歩みなさい。時を買い戻しなさい。今は悪い時代じゃけえ。愚かもんにならず、主のご意志が何であるかよう悟りなさい。酒におぼれやあいけん。身を持ち崩すもとじゃ。聖霊に満たされなさい。詩編や賛美歌や

ワーシップソングを歌い交わし、主に向かって心から賛美しなさい。ほいで、絶えず、どんなことでも、わしらの主イエス・キリスト様を通して、父である神様に感謝しなさい。

(夫婦は)キリスト様を畏れつつ、互いに仕えなさい。妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。キリスト様が教会の頭であり、ご自分の体(である教会)の救い主であられるように、夫は妻の頭じゃ。じゃけえ、教会がキリスト様に仕えるように、妻もあらゆる仕方で夫に仕えなさい。夫たちよ、キリスト様が教会を大切に思い、教会のためにご自分をささげられたように、妻を大切にしなさい。キリスト様がそうされたんは、御言葉と水の洗礼によって教会を清め、聖なるもんとし、しみやしわやそがいなもんが一切無い、聖なる、汚れのない、ピッカピカの教会をご自分に迎えるためなんじゃ。ほいじゃけえ夫も、自分の体のように妻を大切にせにやあいけん。妻を大切にするもんは、自分自身を大切にしとる。わが身を憎んどるもんはおらん。これを養い、いたわる。キリスト様も教会におんなじようにされる。わしらは、キリスト様の体の一部じゃ。「それゆえ、人は父と母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。」この奥義は偉大じゃ。これはキリスト様と教会についての教えとも言える。それはともかくとして、あんたらも、妻を自分のように大切にしなさい。妻は夫を敬いなさい。